

絆

-KIZUNA-

村中小学校区地域協議会が設立されました

～みんなで一緒に地域づくり～

村中小学校区では、令和3年度に「地域ミーティング」を行い、地域住民同士で村中小学校区の魅力や課題について整理するほか、地域協議会説明会を開催し、他地区の地域協議会がどのような活動をしているか、村中小学校区ではどうあるべきかといった検討を進めてきました。

令和5年5月には設立準備委員会を発足し、さらなる検討を進める中で、村中小学校区防災訓練の今後の継続と、避難所運営を始めとした学区の防災への話し合いのために地域協議会設立が必要であるということで話し合いが重ねられました。9回の設立準備委員会を経て、4月20日にゆう友せいぶにおいて、『村中小学校区地域協議会設立総会』を開催しました。

会長に就任した佐藤泰弘さんは、「地震や豪雨災害が毎年各地で起きています。まずは、防災訓練を含めた防災を充実させたいと思います。多くの団体や関係者に関わっていただき、この村中小学校区を少しでも住み良い地域にしていきたいです」と想いを語りました。





小牧警察署通信

みんなでつこう！安心安全のまち



問合先 小牧警察署 (☎ 72 - 0110)



みんなの思い
明るい社会

こまき山ポリス

不法就労・不法滞在防止にご協力を！

◎不法就労外国人を雇用しないために

不法就労等の不法滞在者に対して不法就労を斡旋するブローカーや就労が認められていない外国人を雇用する事業主は後を絶ちません。

警察では、このようなブローカーや悪質な事業主の取締りを強化しています。

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」
～覚醒剤、大麻等の乱用をなくそう～

◎薬物乱用の実態

日本は、覚醒剤、大麻等の大きな消費国となっています。

愛知県内で覚醒剤等の薬物事犯で検挙された人は、平成8年以降、ずっと1,000人を超える高水準が続いています。

薬物乱用の恐ろしさは、何度でも繰り返し使用したくなる性質、つまり、“依存性”を持っているということです。

繰り返し使用するうちに、薬物の中毒症状として、「殺される」、「つけられている」、「見張られている」などといった妄想や幻覚が現れます。

薬物の乱用は、無関係の人々を巻き込む殺人や放火などの二次犯罪を引き起こし、社会に悪影響を及ぼしたり、家庭の崩壊を招いたり、その悲劇は本人のみにとはどまりません。

覚醒剤等の薬物追放にご協力を！

覚醒剤や大麻は、興味本位から気軽に手を出したり、覚醒剤がやせる薬、大麻は音感が良くなるなどと騙して勧められたり、覚醒剤のことをS（エス・スピード）、大麻のことをマリファナ、クサなどと呼んで、何か格好良いもののよう錯覚して安易に手を出してしまう人もいます。

覚醒剤等の薬物を社会から追放するためには、あなた自身が甘い誘いにのらないことはもちろん、あなたの周りで覚醒剤等の薬物を扱っている人を見たり聞いたりしたときは、警察本部が最寄りの警察署、交番、駐在所までご連絡ください。